

令和7年度学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価 (3月2日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①教育活動の質的向上を図る。 ②学力向上と進路実現に向けて、主体的に学ぶ意欲を高め、思考力・判断力・表現力を育成する。	①生徒が、主体的・協働的に取り組む学習を推進し、課題解決能力を育む。 ②学習意欲を高める工夫をし、学習習慣の定着を図る。	①他者と協働して取り組む活動を取り入れる。授業改善に向けた研修会を行う。 ②各教科において ICT 機器等を積極的に活用し、組織的な授業改善を図る。	①グループワーク等を取り入れ、他者と協働して取り組む活動を行い、主体的に取り組むことができたか。 ②ICT 機器等の利用により、各教科で授業内容を工夫したか。	①授業の中で生徒が考える時間を多く計画し、他者への共有を行うことで、主体的な活動を実践できた。 ②授業者の電子黒板の使用が定着しつつあり、ICT 機器を日常的に活用できるような授業づくりを組織的に実行することができた。	①組織的な授業改善に向け、授業改善研修会の内容を工夫していく。 ②生徒が意欲的に学習に取り組むために更なる ICT 機器の効果的な活用方法の研究が課題である。	①組織的な授業改善研修を行い、生徒に身に付けさせたい力を共有し、授業内容を工夫した。 ②学習意欲を高めるために ICT 機器等を効果的に利用することができた。	①組織的な授業改善に向けて、『探究活動と教科・科目における学習活動の関連』をテーマに授業改善研修を実施した。また、授業見学期間を設定し、全教員が授業見学を行った。教科横断的な研修会を実施し、更なる授業改善を進めていきたい。 ②ICT 機器等を活用することが生徒の学習意欲向上に繋がるよう、今後も組織的、計画的にその活用を進めていきたい。そして更なる効果的な活用方法を共有していきたい。	①生徒に身に付けさせたい力を共有し、そのための方策を、授業改善研修会の中で更に研究していく。 ②生徒の一人一台端末を活用する機会を設ける。ICT 機器の活用による学習の利便性向上や、各教科での活用方法を研究する機会や研修会を実施する。
2	生徒指導・支援	①規範意識や基本的生活習慣の定着を図る。 ②個に応じた教育相談体制を充実させ、SC・SSW と連携し、課題解決に向けて取り組むことができる人材の育成を図る。 ③部活動や委員会活動、学校行事に主体的に参加し、他者と協力しながら魅力ある学校生活の創造を図る。	①「一人は一校を代表する」を推進し、社会性が身に付く教育を行う。 ②学校内の連絡を密にし、教育相談が必要と思われる生徒に対して、SC・SSW と連携し手厚い指導を行う。 ③生徒が生徒主体の方針を立て、活動ができるような力を育む。	①日頃より、身だしなみ指導や警察による非行防止教室を行い、規範意識向上に努め特別指導の件数を抑える。 ②かながわ子どもサポートドック等を活用し、生徒情報の共有を密にし、SC・SSW と連携し生徒の学校生活をサポートする。 ③企画、運営の段階で教員主導の活動にならないよう生徒が自主性を発揮できるように支援する。	①特別指導の件数を昨年度より減らすことができたか。 ②教育相談が必要とされる生徒に対して、効果的な支援ができたか。 ③多少の失敗はあっても、行事等に積極的に参加し、協働することができたか。	①特別指導の件数は減少したが、対象生徒数は増加した。 ②かながわ子どもサポートドック等を活用し、SC・SSW と連携ができ、教育相談が必要とされる生徒に対して、効果的な支援ができた。 ③学校行事においては、十分な話し合いを通して生徒自らが活動に取り組む下地を作ることができた。	①特別指導の内容が重くなっている。内容次第で警察と連携し非行防止教室を行うと共に、巡回を強化し未然防止を行う。 ②かながわ子どもサポートドックを行う時期は昨年度に比べ改善できた。来年度も同時期に行う。 ③生徒会に加え、委員会と部活動も各顧問と目標を共有して主体的な活動ができるよう支援を続けていく。	①引き続き、生徒一人ひとりに向き合うと共に、保護者の心情にも配慮する指導を行ってほしい。 ②日常の授業や学校行事における指導、SC・SSW の活用等、様々な要素を活かして多様な対応を模索し、個々の生徒の成長をサポートした。 ③生徒会本部の活動が受け身から自分たちが主導して動けるようになった。	①警察による非行防止教室により SNS トラブルの件数は減少した。課題としては難しい案件が増加しているので、どのように対処していくか検討する必要がある。 ②SC・SSW とのスクリーニング会議により情報を共有することができた。SC・SSW の勤務形態を踏まえ協働する時間をどのように捻出していくかが課題である。 ③生徒会では週 1 回の定例会で主体性を育む指導ができたが、委員会活動では単発的な活動が多く年間を通した指導計画を検討することが必要である。	①身だしなみ指導や警察による非行防止教室、巡回指導を行い、規範意識向上に努め未然防止を行う。 ②アンケート結果に基づいた面談に時間的余裕を持たせ、スクリーニング会議の充実に繋げる。 ③各委員会顧問が年度当初の一斉委員会で目標の共有と日常的な指導ができるよう協力する。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2日実施)	総合評価（3月2日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの進路希望に応じたきめ細やかなキャリア教育の実践を図る。 ②地域連携を通して、地域に求められる人材育成を図る。	①進路指導アセスメントに基づき3年間を見通した進路指導計画を実現する。 ②就職希望者に対する早期意識付けと、地域企業との連携密度を高める。	①文表模試や講演会を学年毎に実施し、総合型選抜や志望理由書等への対策を充実させる。 ②地元企業ガイダンス等の実施を早期より行い、生徒の意識付けを行う。	①生徒が積極的に課題に取り組み、進路意識の醸成に寄与できたか。 ②就職希望者の内定率が100%を維持できたか。	①近年は生徒の進路実態に応じて毎年改訂を実施している。本年も小論文模試等の実施形態を変更した。 ②2年次よりスタートアップセミナーや企業セミナーを実施した。	①生徒の進路活動のスタートが遅くなり、かつ進路決定後の進路意識向上が課題である。 ②進学か就職か決めかねる生徒が増加傾向にある。早期の就職への意識付けを引き続き行って行きたい。	①指定校推薦および総合型選抜による進学が増加傾向にあるので、外部機関と連携しつつ対策を充実させる。 ②地元企業ガイダンスを充実させ、生徒の就職意識向上に努める。	①総合型選抜や志望理由書作成対策として小論文模試を改訂し文表模試としたが、模試と入試とを関連づけられない生徒が散見される。 ②地元企業ガイダンスの充実や新規就職先の開拓等成果は上がったが、生徒の就職意識の低下が目立つ。	①学力型模試の改訂を視野に、生徒の学力に見合った進路指導計画を行いたい。 ②地元企業ガイダンスと上級学校ガイダンスをコラボさせ、進路意識を高めて行きたい。
4	地域等との協働	①地域と連携、協働した学習環境の確立及び発展を図る。 ②地域貢献に資する人材を育成する。	①地域の協働していたく団体や企業、コンソーシアムの活用による学習の充実を図る。 ②学校行事や地域行事、各教科等における地域と協働した学習を推進する。	①「総合的な探究の時間（未来探究）」を中心とした学習において、地域人材や地域企業との協働学習を展開する。 ②地域と学校の交流を積極的に行う。また、発表活動などを通して、他校種における生徒、児童及び教員との交流を推進する。	①地域人材や地域企業と連携協働し、協力団体の活用を10回以上行えたか。 ②行事や教科等において、地域と学校間の人材交流が推進されたか。	①山北町へのインタビュー、地域企業への訪問などを行うことで地域の方との協働を行うことができた。 ②探究発表会だけでなく、文化祭や夏季休業中のお祭り等で、多くの地域の方と協働することができた。	①授業時間を有効に運用することで、さらに活動の多様化に努める。 ②今後も、今年度の活動を継続していく。D52 フェスティバルや桜まつりでの活動も増やしていく。	①テーマを6つに分けることにより、生徒の人数が分配され、小回りの利く活動が増えた。生徒の興味や関心が高い分野での活動をより多くしていくと共に、町とのコラボレーションによる取り組みの検証や見直しを深めてほしい。 ②校外で活動する際の指導を徹底する。	①地域の方に協働していた成果が、発表会の内容に表れている。今後 aussi 取り組みを継続すると共に工夫を加えていく。 ②教員間のコミュニケーションを密にし、他分野の内容を取り入れるようにする。	①学校と地域、双方にとって前向きな活動になるよう、連携を続けていく。 ②他者との協働的な活動が、多くの学びに繋がることを理解させる。
5	学校管理 学校運営	①働き方改革の視点を重視し、教員のワークライフバランスの推進を図る。 ②ハード面・ソフト面の両面において、職場の環境改善を図る。	①勤務時間の意識を持ち、時間内で業務が終了できるよう職員間での声掛けを行う。 ②オフィス改善によりハード面の改善を図り、業務遂行の促進に資する職場環境を築く。	①電話応答体制の変更ににより、業務終了時刻が意識づけられる。職員間での声掛けにより、業務時間内に仕事を終える習慣づけを図る。 ②オフィス改善を機に、整理整頓を保つことにより、業務の効率化や事故防止に繋げていく。	①業務の精査、効率化により、定時以降の業務時間が短縮され、教員のワークライフバランスが改善されたか。 ②個々の机上等の物理的な整頓と共に、グループごとにサーバー内のデータ管理状況を見直すことにより、業務の効率化や事故防止が図られたか。	①勤務時間外の電話対応の不要により業務時間が短縮され、教員のワークライフバランスの改善が促進された。 ②職員室に個人ロッカーが整備されたことで、机上の整理が進み、業務の効率化や事故防止が推進された。	①連絡や調整を要する業務を担当する職員の時間外勤務が多くなってしまうので、業務分担の工夫を更に進めていく必要がある。 ②個人ロッカーの上が荷物置き場に利用されているが、防災の観点から背の高い荷物を置かないようにする必要がある。	①DX化を推進することで、先生方のワークライフバランスを整え、毎日の授業等に十分な力を発揮できる体制を整えてもらいたい。 ②働きやすい職場環境を整備することともに、防災上も安全な職場環境を整えてもらいたい。	①昨年度から職場のDX化を推進してきた。それにより、職員の勤務時間の短縮化がかなり進んだ。今後ともこの流れを継続し、新たに改善できる部分は改善を進めていく。 ②ハード面ではオフィス改善により、職場の環境改善が推進された。今後は防災上の安全も考えつつ、ソフト面の環境改善を推進する必要がある。	①これまで以上の勤務時間短縮を進めるため、企画会議を通して各グループから意見を吸い上げ、それを検討していく必要がある。 ②総務Gや広報連携Gの協力を得て、長期休業中にサーバー内のデータ整理や防災上安全な職員室を整える。